

審判報告書の記入上の注意

はじめに

協会から派遣された主審は、公式試合終了後、試合の審判報告書を主催協会あてに指定された送付方法で期限内に提出する。

審判報告書は、その試合の主審が競技運営で記録した公式文書である。内容に間違いがないように他の審判員と記録を確認し、競技規則の用語を用いて記入し、提出する。

競技会名

正式名称を記入する。

(例) 第81回天皇杯全日本サッカー選手権大会 1回戦

対戦および結果

勝敗に関係なく、左側(A)にホームチーム、あるいは、組み合わせ表または試合組み合わせ表の左側(上)に書かれたチーム名を記入する。チーム名は正式名称で記入する。

結果は、チーム名に対応して合計の得点を記入し、順に前、後半の得点を括弧内に記入する。

延長の場合、同じように前、後半の得点を記入する(合計得点は、延長の得点も含めて記入する)。

ペナルティーマークからのキックの場合、さらにPK(4:5)のように記入する。

日時

キックオフの時間は、予定時刻ではなく実際にキックオフをした時間を記入する。

会場

競技場(グラウンド)名を正式名称で記入する。

(例) 横浜市三ツ沢公園球技場

主審とその他の審判員

審判員の氏名は必ずフルネームを記入する。

所属欄には、1級および女子1級審判員は「日本協会」、2級審判員は「地域協会名」、3級および4級審判員は「都道府県協会名」を記入する。

競技場、用具の状態

競技場と用具がすべて良い状態であれば「良好」、その他の場合には、具体的に（芝、土…状態…凹凸、水たまりあり等）状態を記入する。

競技場の用具（ゴール、ネット、ライン等）に不備があった場合には、競技開始前にどのような改善策を行い、その結果どのような状態になったので競技を開始したのかを詳細に記入する。

警告

1. 時間 *「試合イベント時間表記統一について」参照
 - 試合中：前、後半の通算時間また延長も通算時間を記入する。
 - ペナルティーキックマークからのキック：「PK」と記入する。
2. チーム名
3. 選手の番号、チーム役員の場合は、役職
4. 氏名（フルネームで記入すること）
5. 理由（競技規則の記載どおりに記入する。ただし、「ラフプレー」は、競技規則では「反スポーツ的行為」に含まれるが、日本では独立した警告の項目としている。適用を間違えないよう、注意する）
6. 具体的な反則の内容

退場

警告の欄と同じ要領で記入する。

*退場の場合、「別紙の審判報告書（重要事項）」に詳細に記入して提出する。ただし、2度の警告の場合、審判報告書に記入する。

その他の報告事項

特に問題のなかった場合には「特になし」と記入する。

その他の場合には具体的に記入する。

【具体例】

- ①主審が懲戒の罰則を運用することのできない時間帯に懲戒罰に相当する行為があった場合
- ②チームのユニフォーム等に問題があった場合
- ③キックオフの時間が遅れた場合
- ④副審や第4の審判員に問題があった場合
- ⑤運営面で問題があった場合

⑥その他（規則第5条の主審の「権限」「職権と任務」に問題が生じた場合）

*①、④、⑥については、この審判報告書に加え、別紙の審判報告書（重要事項）を用いて、詳細を報告する。

記入の際、次の事項に留意すること。

- タイトル
例：「85分Aチーム6番～（氏名）選手による乱暴な行為、退場について」
- 客観的な事象
例：「いつ」「どこで」「誰が（誰に）」「どのように」「どうした」
- 主審の下した決定
例：「相手競技者の顔を平手でなぐったので、乱暴な行為によりレッドカードを示し退場を命じた」
- 退場、退席後の競技者、役員の行動、態度
例：「素直に競技のフィールドから出ていった」

日付、住所、署名

日付は、記載日を記入し、年は西暦で記入する。

住所と氏名は、明確に自筆で記入する。

報告先

試合を主催した協会の会長あてとする。

*協会名は、正式名称で記入する。